

## COVID-19 患者における不規則抗体同定検査への対応

### COVID-19 と輸血検査

◎舞木 弘幸<sup>1)</sup>、外室 喜英<sup>1)</sup>、宮元 珠華<sup>1)</sup>、江口 奈津希<sup>1)</sup>、水口 颯<sup>1)</sup>、笠畑 滯<sup>1)</sup>、政元 いずみ<sup>1)</sup>  
鹿児島大学病院<sup>1)</sup>

【はじめに】新型コロナウイルス（COVID-19）患者での輸血検査時の検体の取り扱いについては明確な基準が無いのが実情である。

当院では、COVID-19 患者の輸血検査は防護具を使用して全自動輸血検査装置にて血液型検査、不規則抗体スクリーニング検査・不規則抗体同定検査・交差適合試験を行っている。用手法による試験管法は行ってはいない。今回、交差適合試験にて不適合を呈した COVID-19 患者の不規則抗体同定検査時の当院の対応について報告する。

【成績】交差適合試験は、Liss-IAT にて RBC2 単位 2 本中 2 本 w+ で不適合となった。不規則抗体スクリーニング検査は、0.8%RCD 法にて 1+ で陽性であった。不規則抗体同定検査は、Liss-IAT にて自己対照を含め全てのパネル血球に w+ の反応を呈した。尚、患者は入院時にも不規則抗体スクリーニング検査で陽性となり、不規則抗体同定検査が行われていたが、自己対照が w+ 以外全てのパネル血球は陰性であり不規則抗体陰性で報告されて

いた。輸血歴は、無かった。試験管法による不規則抗体同定検査が行えなかったことから輸血は、交差適合試験にて反応の弱い製剤を選択することにした。その後 SARS-CoV-2 が陰性となった時点にて試験管法による不規則抗体同定検査を行ったが陰性であった。

【考察】COVID-19 患者検体の取り扱いについては、日本臨床検査医学会が 2020 年 4 月 13 日付けで「日常検査体制の基本的考え方の提言」について報告している。提言によると通常通りの検体容器を開けずに検査できる自動搬送システム・自動分注機・自動検査装置を想定している。輸血検査で使用している全自動輸血検査装置は、検体容器を開けて機械にセットしなければいけない。そのため当院では、COVID-19 患者検体を用いての輸血検査では防護具に手袋・マスク以外に、ガウン・フェイスシールドまで使用している。今回の報告にて COVID-19 患者検体の輸血検査時の取り扱いについての基準が示されることを望みたい。本報告は、鹿児島大学倫理審査委員会の承認を得ている。 連絡先:099-275-5635